nomorefukushima　nomorefukushima　nomorefukushima

原発といのちを考える会WANニュース　１０

事務局 和光市南 2-1-12-401　　Mail：nomorefukushima.wan@gmail.com　2017･8･1

ＷＡＮ第６回定期総会報告

平成２９年５月１３日（土）１３時３０分から中央公民館にて、WAN 第６回定期総会を開催しました。出席者１１名、委任状１３名で会員３２名中２４名の出席をもって総会は成立しました。

総会に提出された５つの議案（平成２８年度活動報告、平成２８年度会計報告、平成２９年度役員候補案、平成２９年度活動計画案、平成２９年度予算案）は出席者承認のもと、すべて可決されました。

第２部　森の測定室・滑川報告会

森の測定室・滑川の根岸主門氏による報告会「東日本土壌ベクレル測定プロジェクトから見えてきた東電福島原発事故の爪痕」が開催されました。

森の測定室・滑川は、食品や土壌に含まれる放射能を測る市民測定室。３．１１以降に、子どもの未来を守ろうと手をつないだ比企地区、寄居、熊谷の母親たちによる「子ども未来比企ネットワーク」が中心になって２０１２年１０月に開室。非営利でボランティアスタッフによる運営をしています。

報告会の内容は、原発と放射能に関するクイズの出題、内部被ばくによる染色体異常を解説した映像の視聴、東日本土壌ベクレル測定プロジェクトの説明などでした。

東日本土壌ベクレル測定プロジェクトは２０１２年から２０１３年にかけて、岩手を皮切りに、青森から静岡までの１７都県における土壌測定を市民の手で行ったものです。測定目的は、①現状を知るためのデータとして、②未来に遺す貴重なデータとして、③半減期が２年と短いセシウム１３４を半減する前に測定するためです。「みんなのデータサイト（http://www.minnanods.net/soil/）」に測定結果を掲載しており、１００年後までの予測を掲載しています。

埼玉では測定結果をもとに「公園放射線ＭＡＰ」が作成されています。

福井県若狭の原発銀座をめぐって／会員・若藤えい子

２０１７年５月２０～２３日、福井県若狭の原発銀座をめぐって来ました。私は福井県勝山市出身なので、１９７０年３月１４日、東海原子力発電所に次いで、日本で２番目の敦賀原発ができると、若狭地方が沸いていたことを覚えています。

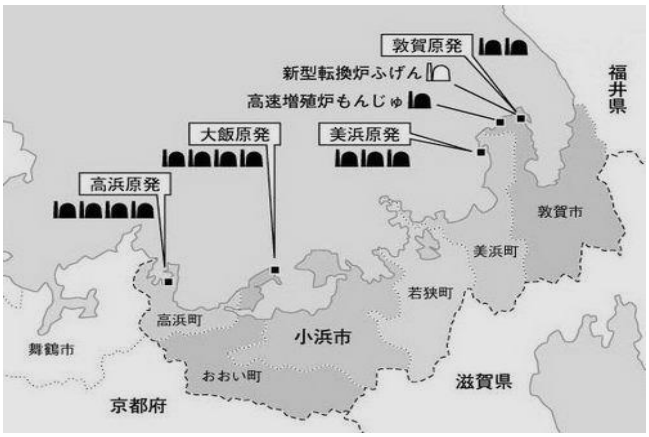
福井県は、嶺北地区（県北部）と嶺南地区（若狭地方）とでは、産業・文化がかなり異なります。かつてガチャマン景気と言われたほどの絹織物産業と米作りの盛んな嶺北地区と、リアス式海岸の海水浴場と三方五湖しかないと言われた嶺南地区とに二分されていました。

その若狭に「原発が来る！」、しかも半島の突端なので、「船でしか行けなかった所に、大きな道ができる！」「観光の目玉になる！」と、地元では大歓迎されました。私も小浜の友人が、敦賀原発までの道を誇らしげにドライブしてくれたことを覚えています。

その後、敦賀原発に続いて、７０年１１月２８日・美浜原発、７４年１１月１４日・高浜原発、７９年３月２７日・大飯原発、９４年４月５日・もんじゅと、原発が次々とできて、敦賀から高浜まで直線距離にして約４０キロの間に、１５基の原発が連なる「原発銀座」を形成していったのです。そして、原発群が作るその電力のすべてを関西広域圏に送電し、同圏域の電力消費量の５５％もまかなってきたのです。

敦賀原子力館

美浜原発



今回、約５０年ぶりに、敦賀原発まで行ってみたら、釣り宿、沖の釣りいかだが点々としていて、海水浴場を過ぎてすぐに敦賀原発でした。あまりの近さに「事故が起きたら海水浴客はどうなるの？」と、悪い想像をしてしまいました。

敦賀原発の敦賀原子力館は、いかにも子どもたちの社会科見学用という感じに作られていて、パネル展示、原子力炉の模型が充実していました。ゲームセンターのクレーンゲームのようなものまでありました。

次に行った、美浜原発と美浜原子力ＰＲセンターは、喫茶店・お土産の売店もあり、美浜町の地域文化を宣伝していこうという意欲が感じられました。特産の梅ジュースがおいしかったです。

もんじゅは外から眺めるだけで近づけませんでした。

もんじゅ　日本原子力研究開発機構 2016 年 12 月 21 日 廃炉決定。稼働日数は 22 年間で 250 日。高速増殖原型炉。

高浜原発再稼働に抗議し、断食を行った、中嶌哲演住職

２１日、「海のある奈良」と言われ、奈良・東大寺へのお水送りで有名な神宮寺をはじめ、多くの奈良時代のお寺が残る小浜へ行き、お寺めぐりをしました。

明通寺（小浜市）
中蔦哲演住職

明通寺では、中嶌哲演住職にお会いし、お話を伺うことができました。中嶌哲演住職は、高浜原発４号機再稼働に抗議し、関電本社前（大阪市）で３日間（5 月 15～17 日）、福井県庁ロビーで２日間（5 月 18～19 日）断食しました。関電本社前を選んだのは、原発電力の「消費地元」の市民のみなさんに、たとえ一食断食でひもじい思いをしてでも、これまでの生活のありようを振り返り、子どもたちや孫たちが安心して暮らせる未来のためにも、再稼働を許してよいのかを問いかけたかったからだそうです。

２２日、高浜原発。幹線道路から内浦半島へ入って行く道路は、ものすごい山の中で、行き交う車が、高浜原発往復のトラックばかり。そして、「土運搬」のプレートがついているのに、なぜか荷台は空っぽ。高浜原発のゲート前では駐車もできず、少し離れた場所からようやく撮影。

高浜原発

↑右　本堂(1258 再建)　左　三重塔(1270 年再建)

次に大飯原発。ここは原発ゲート前でシャットアウト。ゲートから入って山一つ越えたところにあるようで、原発の影も形も見えません。対岸からなら見えるのではと、車を飛ばし、内外海半島・エンゼルライン展望台まで行きました。そこでも見えず、あきらめかけて降って行った時、小さく撮影できました。

大飯原発を見るには、青戸クルージングの船に乗ったほうが良かったようです。残念！

今回の旅では、改めて若狭の美しい自然・文化を満喫してきました。三方五湖の水月湖では、年縞という湖底４５メートルの土の堆積、７万年のしましまがあり、２０１３年から地質学の年代の「国際標準時」となっています。そんな古い歴史のある若狭地方が、一端、原発事故が起きれば、壊滅的な状態になりかねないのです。

中嶌哲演住職のように、地元でがんばってらっしゃる方もおられます。私たちも住職のお言葉にもう一度しっかり耳を傾けてみましょう。

大飯原発

原発事故がもたらした「現実」を知る４冊

今回は、原発事故後の被ばく問題を追い続けた日野行介氏（毎日新聞記者）の著書４冊を紹介します。

日野氏は､1999年入社の気鋭の記者で、2011年の原発事故時に東電や保安院を取材し、原子力特有の情報操作、隠蔽を実感。2012 年、東京社会部に異動、「調査報道」に携わり、役所の発表や捜査当局の情報によらず、独自の取材で集めた証言や物証で報道の中核部分を構成し、組織や権力者の隠蔽や不正を暴いてきました。「権威」と呼ばれる専門家と対峙する重圧は言いようのないものだと、ご自身が述懐されています。

しかし記事になったときの反響や応援も桁違いに大きく、これを力に誠実に調査報道に邁進してきた成果を集めた４冊です。原発事故による自主避難者に寄り添い続ける姿勢も、大きな共感を呼んでいます。

ぜひ、ご一読ください！

『福島原発事故　県民健康管理調査の闇』
（岩波新書）2013/9/21　　¥780
『福島原発事故　被災者支援政策の欺瞞』
（岩波新書）2014/9/20　　¥780
『原発棄民　フクシマ５年後の真実』
（毎日新聞出版）2016/2/24　　¥1,400
『フクシマ６年後　消されゆく被害－ゆがめられたチェルノブイリ・データ』共著
（人文書院）2017/2/20　　¥1,800

10月　福島を訪問します

福島原発事故からすでに６年が経過しました。国の避難解除が順次進められる中、帰りたくても帰れない方がたくさんいらっしゃいます。現地の福島は今どのような状態にあるのでしょうか、現在上尾に避難しておられる橘さんにご案内いただき、10 月 10 日から１泊２日で、津波の爪痕と原発事故から復興に取り組んでおられる現地の様子を視察してきたいと思っております。

なお、11 月頃、報告会を開催する予定です。

〔道程と見学場所は下記の予定です〕
和光市→浪江町小高区→下浦～浦尻→幾世橋･大聖寺→まちなかまるしぇ→請戸橋(第一原発遠望)→（泊）→富岡町･岡内東児童公園→さくらモール・小良ヶ浜漁港→楢浜町･洋上発電所、フレコンパック置場→広野町･ふたば未来学園→和光市